

## 2021年度 学校関係者評価委員会の報告書

1. 目的：学校評価を通じた組織的、継続的な教育活動の改善  
地域連携・協力による特色のある学校づくりの推進
2. 内容：学校の教職員が学校の理念、目標に照らして自ら教育活動について  
行った評価結果を基本として評価を行う・
3. 委員会メンバー  
事務局―遠藤先生  
事務局―清水先生  
事務局―渡邊先生  
事務局長―大澤  
実習施設（3施設）―看護局長（部長）  
社会福祉協議会―事務局長  
久米田看護専門学校―副学校長  
同窓会会長（卒業生代表）  
副学校長
4. 今年度の実施状況  
第1回目―5月19日（水）  
1年の流れ「学校の年間スケジュール  
今年度の重点目標  
卒業生のアンケート結果  
新型コロナウイルス感染拡大による看護基礎教育の現状報告  
各実習施設の新人スタッフの現状  
第2回目―9月15日（水）  
今年度の自己点検自己評価について  
新型コロナウイルス感染拡大による看護基礎教育の現状報告  
各施設の新人スタッフの現状  
今年度、卒業生の求める内容（学校に求める内容）  
第3回目―2月16日（水）  
自己点検自己評価結果についての評価  
次年度に向けての課題  
実習施設から今年度学校に求める内容
5. まとめ
  - ①昨年は評価結果から教職員間での評価基準の捉え方がバラバラで評価の妥当性に欠けることが課題になり、評価基準と参考資料を再度示し学習会をすることで、評価の視点の統一はできたと考える。  
教育する側から何ができて何ができていないかを把握し自己評価をつけることができたことで次年度の課題も明確となった。
  - ②新カリキュラムに向け申請の年と重なり、教育理念、目標内容の見直しにより、昨年同様またはそれ以上に、自己点検自己評価に対する意識が高まり、昨年より平均点が高くなっている項目が多い。  
昨年以上に教職員の教育に関する関心が高まっている。
  - ③卒業生の就職状況（32名の卒業）

市内 —18名（実習施設への就職）

その他の泉州地域—7名

堺 —3名

大阪市内—1名

県外 —1名

未就職 —2名

- ④学生本人が、社会人として責任ある行動がとれるよう指導することに重点を置いている（専門職業人としての教育）

保護者対応は必要時行う場合がある。

- ⑤卒業生の社会評価・学習支援

昨年の卒業生の中で2名が退職をしたと報告を受けている。

（原因＝メンタル）

今年度、32名の1年目と、昨年の卒業生の2年目について、引き続き評価をしていく必要がある。

また、国家試験対策の強化が進んでおらず、次年度は業者との連携や積み重ね学習ができるよう、各学年の学習支援担当教員が、プロジェクトチームの役割をし、学生が主体的に取り組めるような計画を考えたい。

- ⑥教育環境として

ICT教育の強化から、インターネット環境はかなり整えられている。

外部講師の協力により、学生のスキルアップにつながっているが、教員のスキル向上に努力が必要である。

- ⑦学校関係者評価委員会での委員から

- ・今年度もコロナ禍で、実習受け入れが思うようにいかなかった。卒業後、臨床とのギャップに悩まされる新人が多いこと、またメンタルの弱さを感じている。

ギャップを埋めるためにどのように関わっていくかが、指導者側に問われている。

- ・今年度は、新型コロナワクチン接種で学生ができる補助を提供して頂き、現場の看護師やスタッフの動きから学習できたことが多かったようだ。

このことが、学生にとっての社会貢献にもつながっている。

- ・学生のアルバイトも現場がイメージできるように、病院や医院の看護助手などを学校で進めて頂きたい。

- ・コロナ禍により危機管理として災害教育などに目を向けることができていない。

今年度、地域に協力して頂ながら、災害を想定した安全管理対策についての学習ができればと考えている。

- ・学生の質向上のためには現場との協力が何よりも大切である。

1年次にしっかり学生と関わることで、3年次の実習では学生が主体的に学習ができる力を発揮できるようにしたい。

実習施設との共有、協力で学生だけでなく、教員及び指導者の質の向上につなげたいと考えている。